

| | | | |
|--|------------|--------------|--|
| (科目名) 理学と社会交流 II | | | 学部提供「専門基礎科目」として提供 |
| (所属部局) 理学研究科 | (職名) 講師 | (氏名) 常見俊直 | (開講期) 後期 (授業形態) 演習 (対象回生) 3・4 回生 (対象学生) 理学部 (他学部も可。 ただし、単位認定については所属学部の規定による) |
| (授業の概要・目的) 理学と社会との交流のあり方について学ぶ。近年、科学コミュニケーションやアウトリーチをはじめ、科学者の社会的責任について議論が盛んに行われている。Weinberg による trans-science や、ボドマーレポートによる public understanding of science などの歴史や現在の科学技術にまつわる政策を講義する。講義にくわえて、受講生は社会交流事業に参加し、来場者との 1 対 1 の対話を通しての実践経験を積み、知識をより確かなものとする。また、社会交流プロジェクトの企画・運営についても学び、プロジェクト目標達成にむけての執筆表現能力、討論・進行能力、図画制作能力を修得する。 | | | |
| (授業計画と内容) 最初の 4～5 週については講義を中心に行い、その後は、実践的な科学コミュニケーションのための理数系の実験教材や、映像などの制作を行う。また、制作したものをもって、社会交流事業に参加する。1) 講義においては、科学コミュニケーションやアウトリーチをキーワードに、歴史、政策、現在の活動について伝える。2) 討論・進行を行うことで、コミュニケーション能力の向上を行う。3) 図画制作能力については、社会交流プロジェクトの展示物の製作などを通して、コンピュータ上でのソフトウェア (たとえば、Photoshop や Illustrator) の使い方を学ぶ。4) 土日祝日においては、社会の中に出てアシスタントとして理学研究科等主催の社会交流活動に参加する。(期間中に 2～3 回程度)。5) 上述の知識や、活動経験を通して、プロジェクト全体の企画運営能力を高める。 | | | |
| (成績評価の方法・基準) 社会交流事業に関するレポート等にて、社会交流イベント実施法や社会での位置づけについての理解を評価する。 | | | |
| (履修要件) 主に理学部 3 回生以上 (大学 2 回生までに学ぶ科学・技術を理解していること。) | | | |
| (教科書) 特になし | | | |
| (参考書) Communication and Engagement with Science and Technology: Issues and Dilemmas A Reader in Science Communication | | | |